

MARUMO LIGHTING NEWS

夏

■1980—2 VOL—34

螢の光、
これだけとり出すと卒業のシーズンだが、
本当は夏の光。
他に花火、大文字、盆灯籠など。
夏はやっぱり夜の光が鮮かになる。
昼ならばまず炎天下の甲子園、
これは青春の光。
太陽に光る汗。
初夏は早朝の草の露。
夕焼は夏の終わりから美しくなる。

—光の歳時記・夏—



舞台照明の基本

第1回

小川 昇



1 舞台照明に

初めて取り組む人のために

これから舞台照明を学ぼうとする人には、それぞれ動機や目的があると思います。

芝居の中の舞台照明の美しさ、その変幻自在な世界に魅力を感じて照明家を志す人や、舞台照明を知ってみたいとか、自分が舞台照明を作るのではないけれど、照明のあり方を研究したいという人など、いろいろ考えられますが、最終的には舞台照明をどう作ったら良いか、ということを知ること集約されると思います。

これから舞台照明を学ぼうとする人達にとって、いちばん大切なことは、最初に何を学んだら良いかということです。皆さんは何等かの動機があって、その必要性によって最初に学ぼうとすることを考えるものです。

例えば学校のサークル活動の一つとして演劇の照明を担当することになったとすると、先ず具体的なことからについて知ろうとするものです。

舞台照明を作るにはどうしたら良いか、ということを手直に質問し、舞台照明を作る技術的なことを学ぼうとする人が多いような気がします。今度うちの文化祭で芝居をするんですけど、その時の照明はどうやって作ったらいいでしょうかとか、具体的に、今度こういう場面での夕日の色は何番のフィルターを使ったら良いでしょうか、などの質問がでできます。

そういう具体的な必要性によって照明に入ってくることが多く、従ってそんな質問に答えることはそんなに難しいことではないのです。むしろ易しいことです。夕日は#35ぐらいでやってみなさいという答は、大きな間違いではありません。

しかし、一つの劇の中で夕日の色を決める時、#35の色を使いなさいと云ってそれですむものではありません。どんな小さな芝居でも、総体的に考えて#35にしようと

いうことにならなければなりません。夕日の色は35番が良いと云われて、その色を無条件に使ったとします。しかしその場合は、35番でなくて33番のもっと強い感じの夕日の方がよかったのかも知れない。あるいは、夕日の残り、残照がちょっと欲しい場合、むしろそんなカラーフィルターは使わないで、生のなんにも入れない明りをちょっと絞って使った方が、その時の夕日には適当であるということもあります。そのような個々の場面についての質問に答えるということは、そういう危険があると思います。

さらには、舞台照明の勉強をする時に器具の名称を憶えなければならぬとか、またはスポットライトの使い方はどうしたら良いか、ステージスポットはどのように当てるものか、スポットで人物をフォローする仕方など、それらに関する質問が聞かれます。それは照明の作業のための基礎知識や、基礎技術を憶えようとする考え方で、このような入門の仕方は、舞台照明の個々の作業を憶えることから始めるという誤った考え方に支配されます。

こうした考え方から出発すると、舞台照明は設備が無ければ作れない、という考え方となるのです。舞台照明の作業は、どんな些細な作業でも総て演出にかかわりを持つものですから、勉強を始めるには、常に総体的にもの考える習慣をつけなければなりません。

個々の作業を憶える前に、先ず舞台照明の基本について考えてみる必要があります。

今の劇場やホールには、立派な舞台照明設備があります。皆さんがもの心ついた頃には、舞台というものは照明設備が整っているものとして接しています。実際に、芝居の中でみる舞台照明は、全部スポットライトや、ボーダーライトなどで作られています。ですから、そういう考え方になるのは、無理からぬことだと思います。勿論照明設備がいらないというわけではありません。照明設

備があればある程いいのです。よく弘法は筆を選ばずといわれますが、どんな筆でも立派な字が書けるなら、立派な照明家は設備などなくても、立派な照明が出来るかと云えば、そうではありません。いやむしろ舞台照明の場合は、弘法であればある程、筆を選びたくなるものです。そしてそれを見事に使いこなします。どんな良い設備があってもそれを使いこなせないとなんにもなりません。立派な設備を使いこなせる照明家になるために、一応照明設備をはなれて、舞台照明は光で作るものであるという基本的な考え方から照明を勉強してみましょう。

皆さんは、御飯は何で炊きますか、と聞かれたらガス釜や電気釜で炊くという人もあるだろうし、うちはパンですから御飯は炊きません。パンをトースターで焼いて食べますと答える人もあるでしょう。これが普通の会話です。私が何故こんなことを云うかと云えば、この答えは、舞台照明は設備で作るという考え方に似ているからです。御飯は何んで炊くかと聞かれた時に、それは熱で炊くという考え方をもつべきなのです。つまり舞台照明をスポットライトやボーダーライトで作るというのではなく、舞台照明は光で作るという考えに基礎を置いてもらいたいのです。スポットライトとかボーダーライトとかいうものは、電気釜だったり、トースターだったりするように、光を作る器具であるという基本的な考え方をもってもらいたいのです。

2 舞台芸術の中の光について

演劇・舞踊・オペラ・バレエなどの個々のものについての照明は、若干その方法やテクニックは違いますが、基本的に同じだと考えて下さい。はじめから演劇の照明とバレエ・オペラ・舞踊の照明とを別々に勉強する人もありますが、基本は同じで、その基本の応用方法が違っているものであると、私は考えています。

舞台芸術は総合芸術であるといわれます。それは何故かというところを構成する要素として、まず脚本があって、俳優がセリフを語り、演技をして、そしてそれを取りまく装置や照明がいろいろな情景を作る、音楽など加えて、そういう総てのものが、演出という一つの型に統合されて、そこに演劇なり、バレエ・オペラといった新しい芸術が創造されていきます。そういう意味でこれを総合芸術と云うのだと思います。従って、芸術を創る各部門はおのおの役割をもっています。おのおの役割に

は、総て相関関係がありますから、照明だけの勉強でなく、装置や演出などに関連して、照明はどうなっているかということも勉強しなければなりません。

演劇を成り立たせている要素を考えると、俳優と舞台と観客の三つで成り立っているといわれています。はたして三つの要素だけで演劇が成り立つだろうかと云うことを考えます。そこに光というものが加わらなかつたら現代の演劇は成り立ちません。

昔から光は演劇の成り立つ要素の一つだったのです。でも、演出効果として、光の明暗を意識的に工夫する試みがなされた記録もあるのです。例えば、お化けの出る芝居とか、陰気な雰囲気を出したいような時に、窓を閉めて舞台をうす暗くしたりしたことがあります。しかし演劇は明るい昼間におこなわれ、自然の光から明るさを求めていたので、光を要素としては考えなかったのです。

現代では、もう一つ光を入れて成り立つ要素が四つになると思います。今の劇場は、自然の光から明るさを求めることは全く不可能で、明るさは総て人工の光によって作られています。人工の光でも、自然の光でも工夫した光で物を照らすということが、照明の本来の姿なのです。昔の演劇にも光の役割はありました。ただし、それは自然の光なので、光というものの必要性はあまり意識されていなかったのです。私達が、空気の必要性をあまり意識の中に置かないのと同様です。

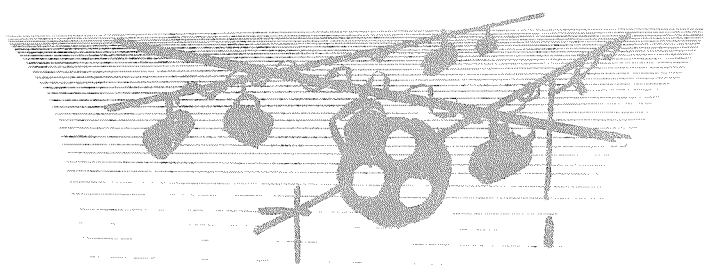
現代の演劇では、作られた明るさがなければ演劇を見ることができないので、光の役割が意識されてきたのです。舞台上で役者が如何に立派な演技をしても、客席に観客が一杯すわっていても、それが真暗闇の中だったら、舞台と観客の間に何にも関連が生じません。とすれば、ここに明るさというものを与えて、舞台・俳優・観客などの要素を結びあわせることが、まず照明の基本的な役割といえます。その結びあわせ方、どのように結びあわせるかという光の与え方、それが舞台照明を作るということになります。しかし現代の演劇では見えさえすれば良いと云う結びあわせ方では、その役割をはたすことはできません。

自然の光の与え方の工夫は、窓の開閉程度のことしかできなかったものが、今は科学の進歩によって、いろいろな工夫が可能になりました。ですから、光の与え方にできる限りの工夫をしなければ照明の役割を果せなくなったのです。

今回は、舞台芸術の中の照明の役割について述べます。

劇団東京芸術座公演

「翼は心につけて」の照明



薄井澄夫——●東京舞台照明

はじめに

芝居がどのような過程を経て舞台に乗るのかという事については、前々回に寺田義雄さんが前進座の「さんしろう太夫」公演にそって、具体的に解説されていますし、照明の技術的な事は山内晴雄さんが、詳しくお書きになっていますので、お読みになった方には、良く理解された事だと思えます。

そこで、今回は「翼は心につけて」のプラン表（仕込図）の見方、読み方を中心に東京芸術座が、この芝居を学校の体育館でどのような方法で上演するのかという事について書いてみたいと思います。

まず最初に、この芝居は場面が非常によく変りますので、各場を書き出してみました。各場の後には、設定した時間帯も記してあります。

一幕一場 永和高校会議室

二場 鈴木家 (朝)

三場 中学校の校庭 (昼)

四場 出版社・編集室

五場 大学病院

六場 鈴木家 (夜)

七場 病室 (昼)

八場 病室 (昼)

九場 診察室と廊下 (昼)

十場 カンファレンス・ルーム (昼)

十一場 病室 (昼)

十二場 屋上 (夕方)

二幕一場 A個室 (夜)

B個室 (朝)

二場 病室 (昼)

三場 病室 (昼)

四場 個室 (昼)

五場 個室と廊下 (夕方)

六場 屋上 (夕方)

七場 病室 (昼)

八場 診察室 廊下

九場 鈴木家 (朝)

十場 職員室

十一場 鈴木家 (夜)

十二場 鈴木家 (夕方)

十三場 永和高校会議室

十四場 鈴木家 (昼)

十五場 廊下と個室 (昼)

十六場 個室 (夜)

十七場 永和高校講堂

十八場 エピローグ

私がこの芝居の台本を読んだ時に感じた事を、同様に皆さんもお感じになっていると思うのですが、これは、大変場面数の多い芝居で、その数は全部で30場もあります。もちろん同じ場面も何回か出てくるし、同じ場面でも時間帯が違う事もあります。しかしこれだけの場数を、約2時間少々の上演時間の中で消化しなければならないというのですから、かなり複雑な演出作業を必要としました。その中でも、最も気をつかったのが、転換の為の暗転を少なくする事でした。各場が短い上に暗転ばかりあったのでは、お客さんは芝居を見ているのか転換を見ているのかわからなくなってしまいます。そこで出来るだけ場面と場面をオーバーラップしたり、ピンスポットの人物による語りをつないでいる間に転換をしてしまうという様に、芝居の流れが切れ切れにならないような演出方法がとられました。この様な上演形式を普通は構成舞台という呼び方をしています。構成舞台の場合大道具はある程度省略化してしまいますが、今回照明の場合は、話が日常的な出来事でもありますし出来るだけリアルに表現してみたいと思います。

仕込み図について

前置が長くなってしまいましたが本題の仕込み図についての説明に入ります。今回の芝居の為の仕込み図としては各場面一場一場の仕込み図があります。これは場割り仕込み図とも場割り表とも呼ばれています。この場割り表を全部集めて一枚にした物が総合仕込み図と呼ばれるものです。場割り表も総合仕込み図も記号等によって表わされていますが、場割り表を見ればある程度その場の様子がわかるものなのです。又総合仕込み図を元にしてオペレーターが器具を配置したり色を入れたりする訳ですから、出来るだけ細かい所まで書き込んでおかなければいけません。

体育館で上演する場合の標準的な総合仕込み図を図1に表しておきました。体育館ですがサスもありますし、フロントもシーリングもあります。何も設備のない体育館（なくてあたり前ですね、体育館は芝居をする所ではなくてスポーツをする所なので）を劇場に変える為、最低限度この位の仕込みは必要とするのです。今回使われている器具が、どんな記号で表わしてあるのかを

説明しましょう。

- | | |
|-------------------|--------------|
| ◎ DF | □ CEC (500W) |
| ⊙ T-1 | └─ ストリップ・ライト |
| □ T-1 | ◁ EQ-20 |
| ⊠ オーバーヘッド、プロジェクター | |
| □ スタンド用T-1 | |

まずこの記号を頭に入れていただいて総合仕込み図の説明に入ります。

仕込み図の読み方

仕込み図には縦線と横線によってます目が作られています。この線の間隔は普通1間ですが、まれには1mの事もあります。今回は1間のます目だと思って下さい。このます目の縦の中心線を基準にして上手へ何間(何m)とか下手へ何尺(何m)とか、と云うようにして吊るべきスポットの位置ぎめをします。プランナーは役者の立つ位置だとか、大道具の位置を考えた上でサスの吊り位置をきめる訳ですから、これをでたらめに吊ってしまう訳にはいきません。今回はその中心線からシンメトリーに#64◎が上手と下手にあります。上手も下手も◎が二つずつあり、それぞれ線がつながっていますが、これはそれぞれ2台ずつのスポットが、同じコードでつながっている事を意味しています。又どうして4台が一緒になっていないのかというと、上手と下手に明りのエリアを分ける為に別々にしてあるのです。もちろん4台全部を点灯したらフラットになる訳です。このソーラ型スポットによるフラットな明りを地明りと呼んでいます。つまり上手#64番の地明り、下手#64番の地明りとなる訳です。下手#64番の地明りの内側にもう1つ#77番の地明りがあります。#64番は薄いブルーですが、こちらは濃いブルーです。どんな使い分けをするのかは、場割り表の所で説明をしましょう。

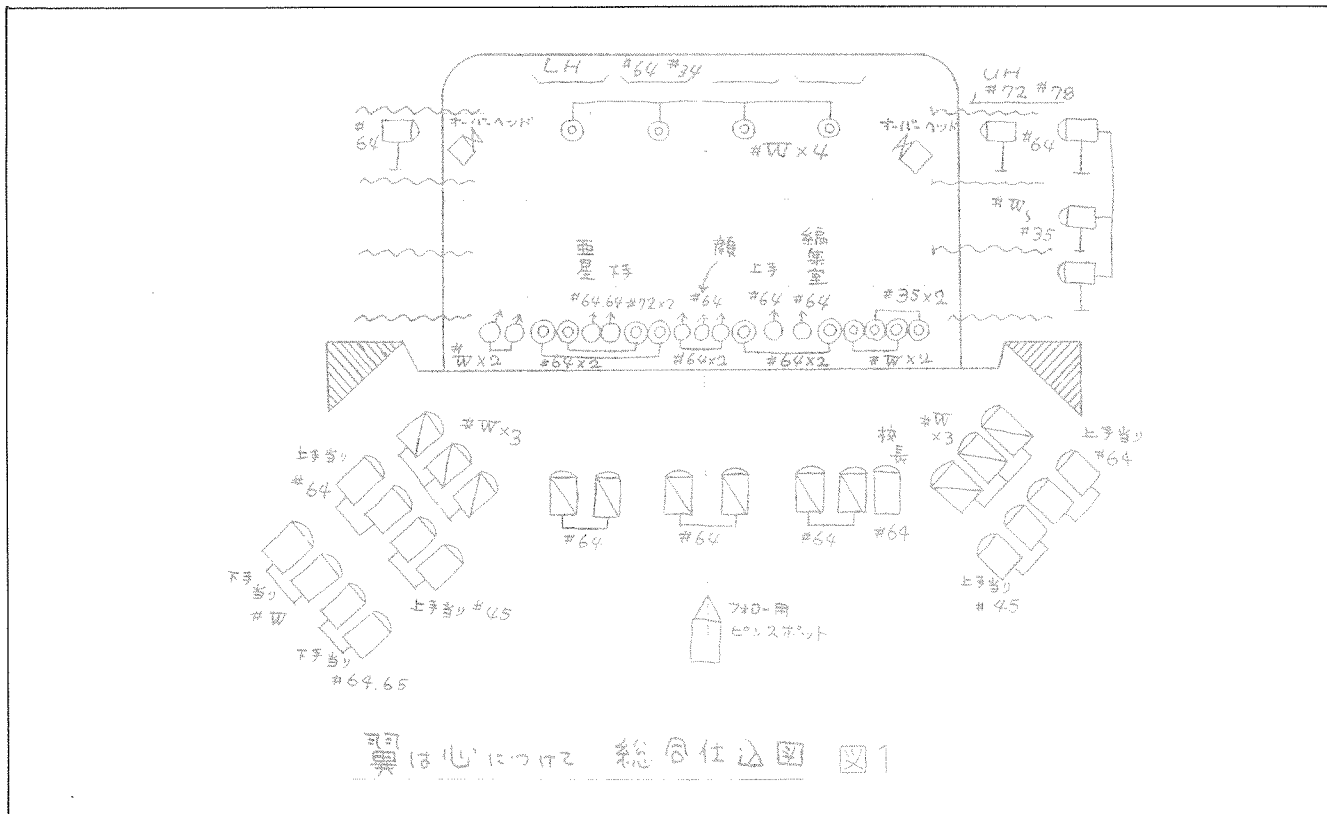
地明りの外側には、まず上手の方に◎#35とWがあります。これは呼び名を「ナナメ」と称して、Wなら昼間の太陽光、#35番なら夕日というように指向性を持たせたアクセントライトです。下手からの⊙も同じアクセントライトです。その他にも名称の付いたスポットがいくつかあります。これは特定のエリアだけの明りにしたい時に使います。たとえば、全体の明りの中で、ある1カ所だけアクセントを付けたいと云う様な時とか、全

体を暗くして特定の部分だけ明るくしたいと云う様な時に使うスポットだと思って下さい。これで第一サスは終りです。第二サスはアッパー・ホリゾン・ライトと同じバトンに吊りますので、図面の上でもUHのラインの上に第二サスの記号を書き込んでおきます。スポットとしてはDFが4台あるだけですが、第一サスの◎64番の様な地明りとは少し違います。◎64番はフラットな上部からの明りでしたが、これは後からくるナナメだと思って下さい。つまりバックからのサスですので、これもある程度指向性を持って来るものと考えて下さい。唯しいくら強くしても役者の顔は明るくはなりません。以上が天井上部からの仕込みですが、真上からと上手及び下手からの「ナナメ」、又後からのサスと単独サス等色々に使分けの出来るスポットが仕込まれた訳です。

次にフロントに移りましょう。劇場での公演の時は必要ない事ですが、体育館ではタワーを組む事から始まります。約5m位の金属タワーを組んで、スポットを吊る訳ですが倒れたりしない様に安全には十分気を付けねばなりません。サスの時と同じ様に同時に使うスポットは線で結んでありますし、名称の付いたスポットもあります。上手と下手が少く違う所に注意しておいて下さい。

シーリングも天井鉄骨からのロープで吊り上げて行いますが、これも安全には十分気を付けねばなりません。シーリングは、上、中、下という様に大きく3つのブロックに分れる仕込み方をしています。もちろん全部を付けたらフラットな明りになる訳です。その他には単独のスポットがありますが、これもサスの時と同じ様な意味合いのものです。

最後にステージに置く器具として、上手側にステージスポットを用意します。これは3台ないし2台の時もあります。色もWの時と#35番の時があり、「ナナメ」と同じ様な使い方になります。舞台奥に上下共通のステージ・スポットがあります。これは上手にある3台のステージ・スポットとは使い方が少し違います。その他にオーバーヘッド・プロジェクター（ホリゾンに雲を写す）が上手と下手にあります。後はローア・ホリゾン・ライトとして2色用のストリップ・ライトをならべます。以上のような事が総合仕込み図の中には記号だとか短い文章等によって書かれている訳ですが、これだけではどんな場面を持つ芝居なのかわからないと思います。そこで各場面で使う照明器具とか大道具等々を書き込んだ場割り表が必要になってくる訳です。



場割り表の読み方

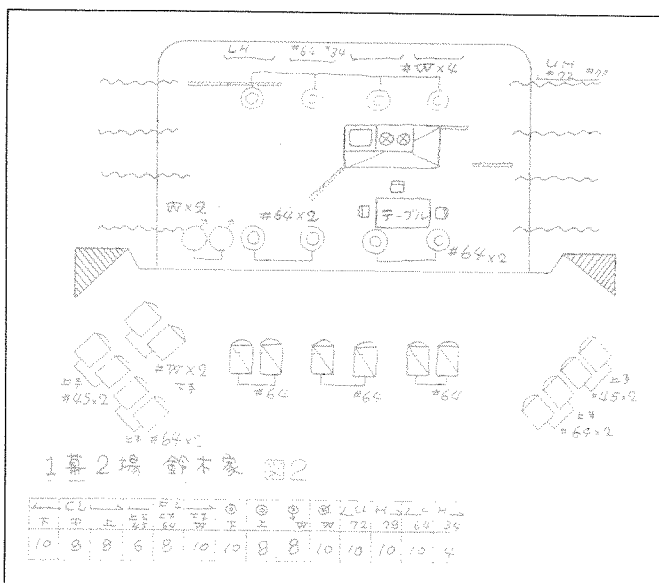
それでは各場面の説明に入りたいのですが場面数があまりに多いので全部を説明する訳にはいきません。そこで、その内からいくつかを取り出して説明したいと思います。

一幕二場 鈴木家 (朝) 図二

時間の設定としては初夏の朝です。鈴木家の人々が朝食をすませてこれから学校へ、職場へと出かけようとしている所です。舞台は中心より上手側に鈴木家の台所のセットがあります。この台所のセットはワゴン車の上に乗っていて暗転と同時にすみやかに上手へ引込められる様な仕掛けになっています。この台所の上手は、次の部屋に続く設定ですし、奥への出入りは玄関への出入りと考えて下さい。下手半分は外です。鈴木家の玄関を出た所で、回りには、ヘイと立木があります。どんな風に舞台が構成されているのかお分かりいただけただしょうか。それでは一幕二場の場割り仕込み図の説明に入ります。

まず地明りの上手は家の中の地明りで、下手は外の地明りですので、下手は明るく上手は少し控え気味にしてあります。下手からのナナメのWは朝の陽光を表わし、下手フロントからのW×2は、その補助光線です。バックサスのWはあまり前の方まで当てずに、奥の方だけ当る様にして立木を光らせるのに使います。

(このバックサスのWは別の場面でもっと有効に使います。)



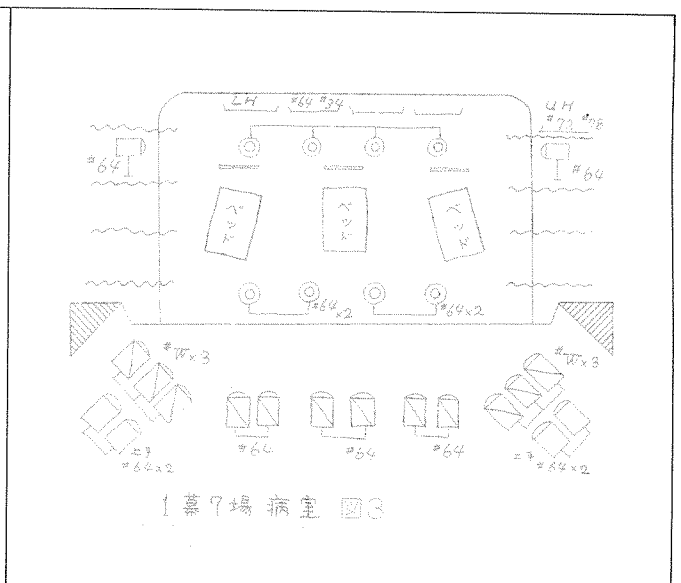
フロントの上手当りの64番45番がありこれは上手側の台所の部分へ当たります。全体としては上手半分の明り(つまり家の中)と、下手半分の明り(家の外)のコントラストが付くように注意しました。

一幕七場 病室 (午後) 図三

主人公の鈴木亜里が入院した病室です。3人部屋なので3つのベッドがあります。そのベッドの後に、つい立て風な大道具があり、その向う側は廊下です。病室への出入りとしては、真中と下手のベッドの間が入口になっています。もちろん戸などは付いておりません。亜里のベッドは上手で、当然その辺りでの芝居が多くなりますので、上手側を下手よりやや明るく作る様にして全体がフラットになるのを防ぎました。バックサスのWは、廊下の部分を通る人をシルエット的に見せたかったからで、同じ様に上下のステージ・スポットの#64番も廊下を通る人の上半身だけに当る様にしました。手前に病室があつて、その向うに廊下があつて、その又向うが外であると言う様な感じにしたかった訳です。この病室の場面は何回か出て来ますが、全体としてはそんなに時間設定に違いはありません。空の感じを少し変えてみたり、下手側の芝居がある時に少し明るくしたりする程度の違いです。

一幕十二場 屋上 (夕方) 図四

この場面は亜里が右手を切断する前に、家族と一緒に写真を写す為に屋上に行った所です。大道具としては、下手よりにベンチ、舞台奥に手すりがあるだけの広々としたセットです。台本の中のセリフを引用しますと、
智子 何を見ているの？



亜里 空……。夕焼けは空のかけら……

間

亜里 空の色、すごい

きつととても綺麗な夕焼けだったのでしょ。ローア
 ホリゾントをアンバーにするのと一緒に、ホリゾント
 一面に雲をオーバーヘッドによって写しました。赤く
 染まるホリゾントと雄大な雲と「ナナメ」の#35番と
 上手側ステージ・スポットの#35番の強い夕日の中で
 歌う「翼を下さい」の歌と共に、一幕は終る訳ですが、
 演出家の注文でもあり、できるだけ情緒的に仕上がら
 ばと思いました。

二幕一場 個室 A(夜) 図五

B(朝)

二幕の緞帳が上がると、舞台は真暗です。亜里の声
 の中でゆっくりとホリゾントがブルーに染り、追いか
 けて舞台の真中あたりだけが明るくなると、そこは右
 手を切断した亜里が寝ている個室です。設定は夜です
 のでホリゾントは#72番を使い、ベッドの回りは一サ
 スからの#64番×2とシーリングの中当りを少し押え
 気味に出します。

次のBも同じ場所で、前場より少し時間経過がありま
 す。役者の入れ代わる必要もあり一度暗転にするべき
 ですが、ホリゾントだけを残して舞台を暗くして、役
 者は入れ代わります。その間にホリゾントは、ゆっく
 りと朝になり、全体の明りになるという次第です。

二幕十五場 病院廊下と個室 (昼) 図六

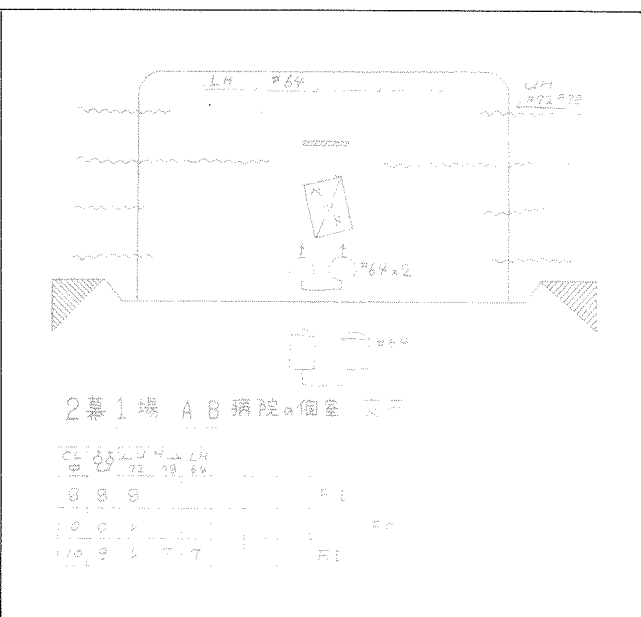
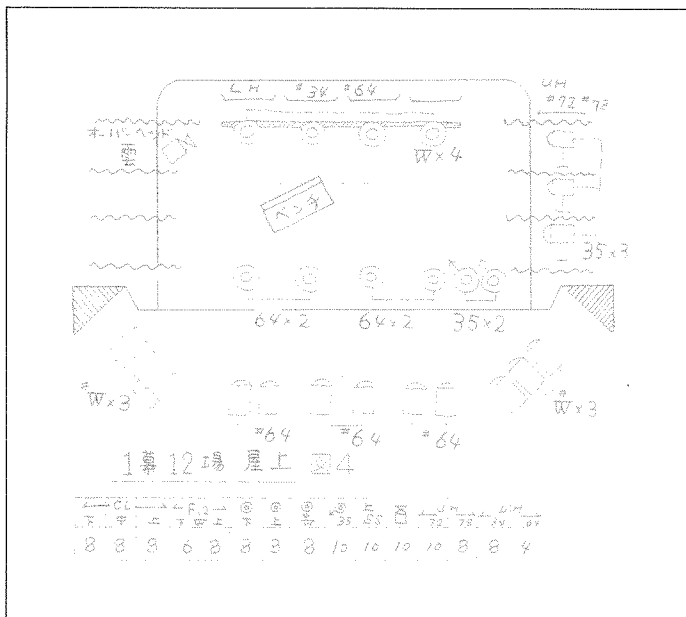
十六場 個室 (夜)

亜里が再び入院をしてしまった個室です。もう死期の
 近い亜里と担当医との会話、その後には、学校の先生、
 友達による卒業式も行われます。まず担当医とお母さ
 んとの会話の場面は上手を明るく、亜里のベッドの回
 りは少しおさえてあります。会話が終り、お医者さん
 が亜里のベッドに近づくと、上手は暗くなり、真中の
 2人だけの部分になります。その後で先生、友達が入
 ってくる所でもっと広い全体の明りになります。この
 変化は、役者の動きに応じてスムーズに行われなけれ
 ばいけないと思います。十五場が、「ほたるの光」と共
 に暗転しますと、転換を待つて十六場がフェード・イ
 ンします。ホリゾントは#72番を使い、亜里の寝てい
 る顔だけに#64番のスポットを当てました。短い何行
 かのセリフの中程からゆっくりとフェード・アウトを
 始め、セリフの終りと一緒に消します。ついに亜里の
 生命の灯が消えたのです。

二幕十七場 永和高校講堂 図七

エピローグ

十六場がフェード・アウトすると、上手に校長先生当
 てのシーリングがフェード・インします。校長先生の
 語りの中で、亜里のベッドは片づけられ、下手のお父
 さんお母さんが板付き、芝居は校長先生から下手の2
 人へと移ります。2人が上手へ去ると同時に、中割
 幕が開くと明るい室があり、雲が流れています。その
 手前に、自転車をこぐ少女が、シルエットに浮かび少



東京芸術座と 「翼は心につけて」

川池丈司

●東京芸術座の歴史と現在

東京芸術座は、戦前の築地小劇場時代から日本の新劇運動の旗手として活躍してきた演出家・村山知義と俳優・薄田研二を中心に、新協劇団と劇団中芸が合同して、1959年に結成されました。以来、その良き伝統を受け継ぎ、社会主義リアリズムの創造方法を掲げ、その豊饒化と普及の運動を続けてきました。主な活動として年に数本の東京公演の他、北海道から沖縄まで全国各地を巡演していますので、私たちが舞台を通して触れ合った方々は、およそ800万人にもものぼるでしょう。これまでの主な上演作品には、「国定忠治」「忍びの者」「橋のない川」「おりん口伝」「蟹工船」「回転軸」「どん底」「レ・ミゼラブル」「あゝ野麦峠」「ペーターヴェン」などがあります。

東京芸術座に所属する約100名の劇団員は、演劇公演の他に、テレビ・ラジオ・映画出演などの多面的な劇団活動に参加し、又、附属研究所では、全国各地から集まった若い未来の俳優たちが、基礎訓練や研究発表に汗を流し、稽古場は熱気の絶える間もありません。

演劇は、直接人間が自分の身体をそのまま芸術の素材として、観客とかかわり合う芸術です。そこには何の媒体もなく、又、音楽や舞踊のように身体の機能の一部を中心として表現するのでもなく、人間の肉体の全機能を使って、観客の前に存在するものです。従って、演劇は、最も直接的に感動を与えることができる芸術といえます。観客は舞台を生々しい現実と感じ、自分自身はその第二の現実に巻き込まれて生きていくように感じます。すなわち、人間はその人だけの生涯しか送れませんが、演劇を観ることによって、たくさん別の生涯を追体験することができるのです。

私たち東京芸術座は、一般公演の他に、年間300ステージに及ぶ、全国の中・高校生を主な対象とした「名作劇場」公演を長年おこなっています。日本における演劇観客はまだまだ少なく、人々の生活の中に演劇が根付いているとは言えません。みずみずしい感受性と柔軟な思考力を持つ青春時代に、生の舞台にじかに触れ、その楽しさを知り、演劇を愛する人々が増えることは、創造する者にとって最高の喜びです。と同時に、青少年の白紙のような心理と感性に、すぐれた演劇を与えることは、とても大事なことです。それによって、彼らの人生の方向を変えてしまうことすらできる訳で、私たち

はこの仕事の重大さと責任の重さを痛感しています。何故なら、古今東西の名作の中には、又、現代を捉えたすぐれた創作劇の中には、必ず人間生活の「真実」な姿が、赤裸々に描かれ、人々を大きく感動させる力があるからです。

●「翼は心につけて」の公演から

つい先日の『翼は心につけて』会津若松公演でも、終演直後、浪人学生だという1人の青年が楽屋を訪れ、「今日の舞台を観て、もうウジウジしているのはやめて、僕自身から決めていた道を歩いて行こうという決心ができました。」と、あわただしく後片づけをしている劇団員数名に、涙をにじませながら語り、握手を求めて、去って行きました。私は、このことだけで、会津に来て本当に良かったと思うのです。

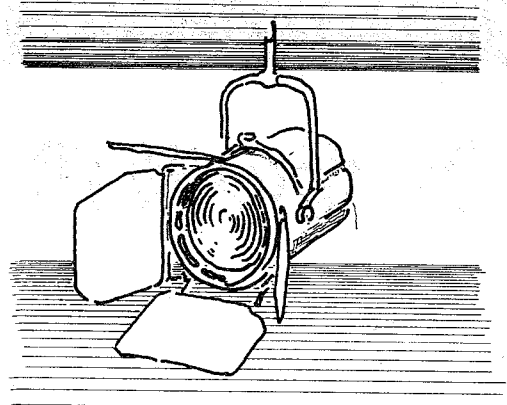
この『翼は心につけて』という作品は、4年程前、実際にあった事を劇化したドラマですが、既に公演回数は100ステージを越え、これからも上演されてゆくものです。

その内容はどこにでもいるような少女が、骨肉腫という病におかされ、右腕を切断されながらも、自分の意志の力で人生にすべてをかけ、短い生命を燃やして生きて、「生きる、物語であり、彼女をとりまく人々が、人間の可能性は誰れにでも無限にあるのだと真底からつかんでゆく」「人間認識の深化、の物語でもあります。刻々と骨肉腫が蝕んでゆく身体とは反対に、愛と生を希求する彼女は、生きる証をつかもうと懸命に努力し、人間の持つ可能性を、確実に、しかも急速に、自分の糧として養ってゆきます。その成果は、無理だと言われていた希望校への入試の合格となってあらわれますが、入学式の5日前に、無念ながら、彼女の肉体は滅んでしまいます。

人を愛し、必要な人間でありたいという自覚が、精神面において飛躍的に彼女を自立させ、自分の客観的存在をも認識させ、生きる意欲を生み出し、生命を豊かさ喜びに満ち溢れさせたのでしょう。「体の不自由な私が、病院で頑張っているところを、同じような患者に見せることで、患者を勇気づけたい」と考え、ケースワーカーになろうと奮闘した心。「今度入院して来る時は、死ぬ時だと思っていた」（死の3日前の言葉）彼女が、再入院後も、「この頃、勉強するのが楽しいの、解らないことが次々に解って来る、それがとても楽しいの」と、苦手であった英文の童話を弟の為に訳そうと、酸素テントの中にまで辞書を持ち込み、最後まで学ぼうとした意志と向上心への執着、生への挑戦。「人が生きて、力一杯勉強したい、力一杯働きたいと意欲を燃やした時、どんなに素晴らしいことができるか、どんなに生命豊かに生きることができるか……」この言葉を、みんなの共通の声にすることができれば、何と素敵なことでしょう。

明るく、爽やかに、奥深い舞台空間を創り上げるよう、連日全力を注いでいます。演劇を創る側の私たちもまた、現代に生きる若者の命題を背負いつつ、一步一步、毎日を懸命に歩みたいと思っています。

マルモのニューフェイス HMI-1200W ソーラースポットライト



●舞台照明に関心を持つ人たちの間で大きな 話題になつている——新兵器

●丸茂が開発した新製品〈マルモHMI-1200Wソーラースポットライト〉がいま、照明家や舞台関係者の間で、大変話題になっていますが、このスポットの特質はどういったところにあるのでしょうか？

——そうですね。その一つは非常に高能率であるということですね。たとえば、今まで5台のスポットライトを使って得た光量をこのソーラースポットだったら1台で済んでしまうということです。それからもう一つの特徴は、光の質が非常に太陽光により近づいているということですね。これは照明に携わる者にとって重要な課題であった太陽光への接近の一つの大きなステップだと思います。

この新製品の誕生は、関係者にとって発想の転換を迫られる革新的な出来事だといっても良いですね。

●海外ではすでにこの種の照明器具が大活躍していると聞いていますが……。

国際的に評価を受けているドイツのバイロイト劇場では、この種の照明器具が欠かせない存在になっているということです。

●舞台以外ではどうなんですか？

——皆様もお気付きになっているかと思いますが、海外からの中継、たとえば、モントリオールのオリンピックなど、映像が近年、とみに美しく鮮明になってきていますが、実は、この秘密は、新しいスポットライトの普及にあるわけです。このように、私たちの身近かなところでこの種のスポットが活用されています。

●日本の舞台でもすでに使用されて話題になりましたが。

——ええ、日生劇場で公演された「NINAGAWA マクベス」がそうです。吉井澄雄さんが照明を担当されましたが……マルモのHMI-1200Wソーラースポットの性能が見事に駆使され、驚くべき成果を上げました。

●具体的にいいますと……。

——たとえば、魔女たちが集まり雷鳴がとどろき、閃光が走るという場面ですが、従来でしたらこういったシーンはアークやストロボを多用して作ったわけですが、どうしても光量が十分でなく、いろんな問題点がありました。雷鳴の場面的な効果は出せるけど、役者のこまかな表現や表情はどうしても見えにくいとか……多くの器具を使う為、いくつかの影ができてしまうとか……。

●ソーラースポットの出現によりいろいろな問題が解決したわけですね。

——そういえます。特に日生のマクベスの時は紗幕を通して見せなければならない難題があったのですが、このソーラースポットがこの難題の壁を破ぶり、しかも、このスポットライトの強烈な光が床に反射して、役者の表情まで浮びあがらせ、緊迫した舞台空間を作っていました。

●今度の演劇集団「円」の公演「ブリタニキユス」で吉井さんが再びこのマルモのHMI-1200Wを使うと聞きますが、どのように使うか大変興味のあるところですね。

——そうですね。私も大変興味を持っているわけですが、こういった器具をどのように使ってゆくかが、これからの舞台照明の大きな課題の一つだと思います。

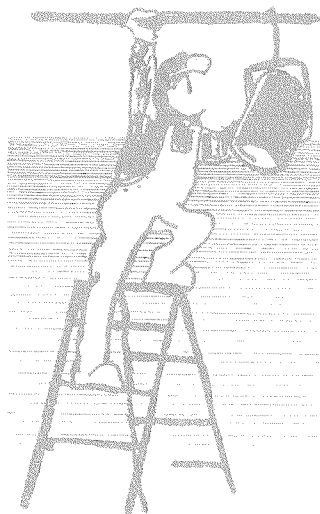
スポットライトからシステム調光まで

丸茂電機株式会社

今、光の時代!

輝く光 美しい光 光のアラベスク

照明器具は演劇部の活動をより素晴らしくするばかりでなく、それは学校生活の文化活動、たとえば講演会や入学、卒業式などの学園生活のセレモニーに欠かすことのできない必要器具となりつつあります。学園生活をより創造的に演出するのが照明器具と言えます。



編集室

● ショウ・ウィンドウにあふれる、明るく軽やかな色彩が、都会の夏の歳時記かと思っていたところ、ふいに間近から、風

のって祭ばやしの音が聞えてきます。ビル街の一角の、忘れられていたような小さな神社の夏祭りが、心をなごませてくれます。

● 小川昇氏の「舞台照明の基本」の連載を、本号からスタートします。今後さまざまな角度から、舞台照明についての基本的な心がまえ、技術などについて書いていただく予定です。限られた舞台空間に、広大なイメージを喚起させるにも、また密度の濃い凝縮された空間を創造するにも、照明はなくてはならない、重要な役割を持っています。質の高い舞台を創るためには、やはり基本な事柄を、一つ一つふまえてゆくことが最善の道だと思われまふ。「舞台照明の基本」は、そういった意味でも、価値のある連載といえます。ご期待ください。

● 全国各地で公演された東京芸術座の「翼は心につけて」は、多くの人々に深い感動を与えたようです。川池氏の文章には、演劇に携わる者の喜びとして、観客からの声が語られていて、印象的です。ところで、各地の公演では、少ない裏方をカバーするため、出演者が照明担当者の指導のもと、仕込みその他の準備に協力していました。このような一団となった演劇を愛する人々の熱意が、充実した舞台を創りだしてゆく支えになるものと思われまふ。

● 講習会のお知らせ 舞台照明寺小屋塾とマルモ・ライティング・ニュースによるジョイント講習会が下記の要領で開かれます。ふるってご参加ください。

日時・8月7日(木)、1時30分より4時まで

場所・ブーク人形劇場(新宿南口8分)

内容・舞台照明の作り方/光について/光のデッサン/光の舞台照明的展開について

講師・小川 昇、横田昭治、岡本秀雄

受講料・1500円、マルモ・ライティング・ニュースの受講者は1000円

申込先・丸茂電機(株)ライティング・ニュース編集部まで、電話でお申し込みください。満員になり次第メ切りまふ。

☎03-252-0321

● ライティング・ニュースに、読者のコーナーを設ける予定です。照明についてのご質問、ご意見、身近におこった話題、演劇部のメンバー紹介、公演の際の舞台写真など、皆さんからのお便りをもとに楽しいページにしたいと思っています。ふるってご参加ください。

● 照明器材の新しいカタログができました。ご希望の方は、丸茂電機(株)までお申し込みください。

● マルモ・ライティング・ニュースは、無料で皆様にお届けしております。ご希望の方は、丸茂電機(株)までお申し込みください。なお、転勤、転居などで住所変更の場合は、その旨ご連絡ください。

● 発行 丸茂電機株式会社

〒101 東京都千代田区神田須田町1-24 ☎03/252/0321(代)

● 編集責任者 井上利彦

● このニュースは弊社からお届けします。